



大町オフィスでは軽作業やPCを使った作業を行っている。

『バリデザ』を開始しました。対クライアントの部分は支援スタッフが対応しますが、利用者さんの能力を把握しながら、段階的にできることを増やしていくようにしています。適性のある人には、クライアントとの打ち合わせに参加してもらうこともあります。

雇用関係である以上、負荷のない業務は意味をなさない。実務を通じて専門性を磨き、顧客と向き合う緊張感を持たせることが、自立への確かなステップとなると利部さんは考える。

構造を打破し誰もが自立して生きる未来へ

利部さんたちが営業活動を通じて感じるのは「就労支援だから安く発注できる」というバイアスが存在しているということ。利部さんはそのバイアスを打破するため、納品物のクオリティにはこだわりたいと意気込む。

「私たち事業者自身が『就労支援だから』と適当な仕事をすれば、結果として障がいのある方への偏見の構造が固定化してしまう。支援も大切だけれど、顧客にしっかりと向き合うことを大事にしていきたい」。

その真摯な向き合い方は、事業展開に広がりを見せている。スキルや体力面からA型で不採用にせざるを得なかった人たちへの歯がゆい経験から、切れ目のない支援を目指してB型事業所「Bridge」を盛岡市に開設した。今後は東北を中心に拠点を広げ、多角的に地域福祉を支える構えだ。「社会にある意識的・制度的なバリアを無くし、誰もが自立して生きられる未来を作りたい」という利部さんの挑戦は続いていく。



同社SNSの運用も利用者が担当している。

株式会社 Barrier Free

〒010-0922
秋田市旭北栄町1-49 GOWINビル2F
TEL 018-893-3181
<https://barrierfree.co.jp/>

代表取締役
利部 真太郎 (かがぶ しんたろう)



HP



生きづらさを抱える人の選択肢を広げたい

地域の福祉において、一般企業と対等に融合できる環境を目指し、新しい福祉のあり方に挑む若き経営者がいる。2022年8月に設立された株式会社Barrier Freeの代表取締役・利部真太郎さんだ。秋田県と岩手県で計4か所の就労継続支援A型・B型事業所を展開している。秋田出身の利部さんは、高校卒業後、ミャンマーなど海外で5年ほど過ごした。途上国で生まれた環境を理由に将来を諦めている人々を目の当たりにしたことで、支援への想いが芽生えたという。帰国後、フィールドは違えど「属性による



事業所以外の就労体験がコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。



事業所には、就職準備の土台となる考え方が掲示されている。

生きづらさ」という共通の課題に向き合うため、就労支援を手掛ける大手の企業へ就職。全国の事業者と関わる中で、地方における選択肢の少なさに危機感を抱いた。「生まれた場所で、同じように生きづらさを抱える人を直接支援したい」と独立を決意。2023年の秋田市内の拠点を皮切りに、着実に拠点を広げている。

利用者の能力を見極め段階的にできることを増やす

同社の大きな特徴は、利用者に単に仕事を提供するのではなく、一般就職への循環を促す点にある。多くの就労支援では軽作業などが主な業務となっているが、同社ではグラフィックデザインやSNS運用代行といったクリエイティブな職域を開拓している。A型の就労支援では雇用契約を結び最低賃金を保障する必要がある一方、人件費を国からの給付金で賄うことは許されず、事業の売上から支払うことが求められる。

「当初は利用者さんの希望に合わせて案件を獲得していたのですが、一般企業に就職すればそんなことは言っていられない。そこで2024年から自社でサブスクサービス